

資料提供
広報取材依頼

情報提供日	令和4年10月17日
行事に関する 問い合わせ先	大田市教育委員会 学校教育課 酢谷昌義 Tel 0854-83-8179 (直通)

報道機関への情報提供（取材依頼）について

1. 行 事 名	錦の伝統織物「温泉津特別セミナー」
2. 目 的	ゆのつまちづくりセンターの緞帳について、その素晴らしさを様々な角度（作者・特徴・制作の経緯等）から学び、作品の価値を改めて認識するとともに、地域の文化財を大切に守り引き継いでいこうとする意識を醸成する。
3. 開催日時・場所	令和4年10月23日(日) 13:00～16:00 ゆのつまちづくりセンター・ホール
4. 主 催	God Hands (ゴッドハンズ) プロジェクト
5. 協 力	大田市教育委員会
6. 参 加 者 数	・先着120名
7. セミナーの特徴	○緞帳について・・・作品名「虹しきなみ」 ・ゆのつまちづくりセンター・ホールの緞帳は、錦織美術の第一人者：龍村光峯（たつむらこうほう）氏制作の、大変貴重な作品です。龍村氏は錦織に関して、皇室の調度品や国宝の修復など、国の中心的部分で織物に携わり、作品は迎賓館や東宮御所にも納められています。 講演に合わせ希望者には機織り体験の場を提供する ○講師 ・龍村周（たつむらあまね）氏・・・錦の伝統織物作家 株式会社龍村光峯（代表取締役） ○講演会（参加無料） ・期日：2022年10月23日（日） ・時間：13:00～14:00 ※入場制限：120名（先着順） ○機織り体験（希望者・・・体験料500円） ・時間：14:10～（最大2時間以内） ※ 一人5分程度
8. 特記事項	コロナ感染対策を徹底し実施します
9. その他	

温泉津特別セミナーの開催

ゆのつまちづくりセンター『緞帳』の素晴らしさを詳しく学んでみませんか！

○日 時：2022年10月23日（日） 13:00～

・「講演」 13:00～14:00（参加無料）⁵⁰⁰

・「機織り体験（絹織物）」14:00～（希望者のみ、体験料~~4,000円~~）

※~~巾10cm丈5cm~~の絹織物を織ってお持ち帰り。

○会 場：ゆのつまちづくりセンター・ホール

○入場制限：120名（先着順）

【講演講師】



当代 龍村周（たつむら あまね）

錦の伝統織物作家、書道・篆刻・陶芸の作品制作。

1974年生まれ、京都府出身。

東京造形大学卒。

創業1894年。

株式会社龍村光峯／代表取締役（2012～）

一般財団法人日本伝統織物研究所／代表理事（2019～）

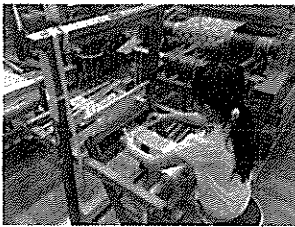
同志社大学プロジェクト科目嘱託講師（2010～）

歴史文化工学会理事（2015～）

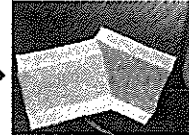
京都市伝統産業「未来の名匠（西陣織）」に認定（2018）

国際日本文化研究センター共同研究員（2021）

「東アジアのMultidisciplinary Scienceとしての本草学の再構成—実物検証を伴う文理融合研究の新展開—」



【機織り体験の様子】



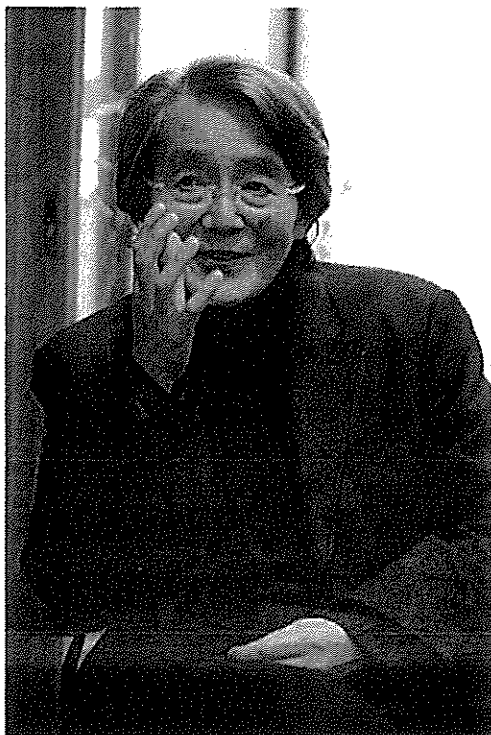
【完成した織物】

曾祖父：初代龍村平蔵（号・光波）

祖父：二代龍村平蔵（号・光翔）

父：龍村光峯（織物美術家）

【緞帳製作者】



龍村光峯（たつむら こうほう）

織物美術家

祖父初代龍村平蔵（号・光波）、父二代龍村平蔵（号・光翔）の後継者として錦の伝統織物を制作。

総合的復元事業として古代製の復元をはじめ錦の織物美術作品、板帳、記念品などを制作。

一般財団法人日本伝統織物研究所前代表理事
<http://www.jttf.or.jp>

財団法人日本文化藝術財団より日本伝統文化振興賞受賞。財団法人全国税理士共栄会文化財団より、全税共地域文化賞受賞。

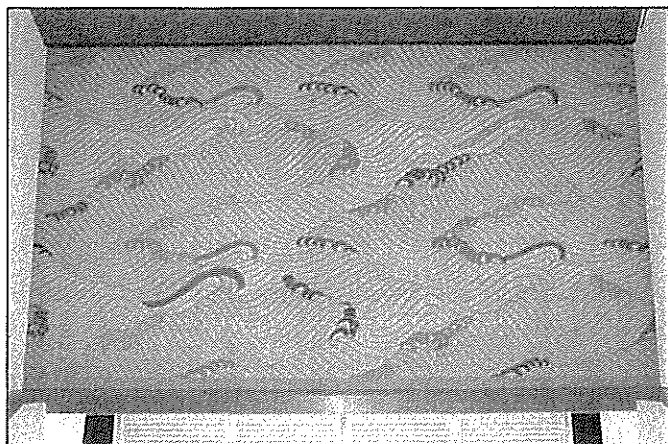
著書に「錦・光を織る」（小学館）、「錦と米口の話（増補版）」（学生社）、「KOHO作品集」（光琳社）

[MORE INFO]

<http://www.koho-nishiki.com/history/>

「ゆのつまちづくりセンターの緞帳」

【虹しきなみ】



本柄の文様の本歌は、平安朝の王朝文化を彩った和紙の歌集の背景に雲母刷で描かれたいわゆる歌集波である。洗練され、流麗でのびやかな線は、かな文字で書かれた和歌とともに和の文化の精華を謳うものである。

大海の律動に酔いしれながら、光と戯れ、千変万化する波濤の彩りに目を奪われていると、平安の貴人たちの忘我の歌境に誘われる気がする。

手機の機音の韻律にそんな気韻を踏んで織り上げんとしたのがこの錦である。

(注：しきなみ…次から次へとしきりに打ち寄せる波)

【作者：龍村光峯（たつむらこうほう）・織物美術家】

1946年(昭和21年)宝塚市生まれ、元の名は龍村順。祖父は初代龍村平蔵(号：光波)、父は二代龍村平蔵(号：光翔)。早稲田大学卒業。国際交流基金勤務後、1976年(昭和51年)に後継者として京都に戻り、錦の伝統織物を制作。株式会社龍村平蔵織物美術研究所を設立。1982年(昭和57年)に、「(株)龍村光峯」に改称し代表取締役。

錦織美術の第一人者であり、総合的復元事業として古代裂の復元をはじめ、錦の織物美術作品、緞帳、タペストリー、記念品などの制作に取り組む。1994年(平成6年)、伝統技術の保存育成のため「日本伝統織物保存研究会」を立ち上げ理事長を務める。京都・東京両国立博物館所蔵正倉院裂「緑地花鳥獸文錦」等を復元。2000年(平成12年)、財団法人日本藝術文化財団より日本伝統文化振興賞受賞。海外での展覧会も多数開催。2011年(平成23年)、一般財団法人日本伝統織物研究所設立。

2019年(平成31年)に死去。(73歳)

龍村家は、皇族方や有力寺社仏閣の調度品、特に、古代裂の復元に取り組む。最も著名なのは、織物の国宝第1号である「四騎獅子狩文錦(奈良：法隆寺所蔵)」の復元である。このように、皇室や国宝など、国の中心的部分において織物に携わってきている。

〈代表作品〉

- ・織額「暈欄段文(一対)」国立京都迎賓館主賓室
- ・織額「瀬戸のうちうみ」東宮御所納入
- ・掛袱紗「雅の松」皇后雅子様ご婚礼お支度品
- ・緞帳「彩綴海松頭微の図」九州大学医学部創立百周年記念百年講堂

〈著作〉

- 「龍村光峯作品集 KOHO」(光琳社出版 1998年)
- 「錦とボロの話 増補版」(学生社 2009年) 父・平蔵の著作を改訂
- 「錦 光を織る」(小学館 2009年)

【制作の経緯】

温泉津町在住の医師：大本秀作氏(町議会議員・当時)が、作者である龍村光峯の妻：裕子の伯父にあたり、その縁で制作を依頼する。当初は、地方のホールの緞帳にお金をかけるなんて、という批判もあったが、「誰が来られるか分からない 後世に残る良い物を作らねば」との思いで進められた。1981年(昭和56年)、温泉津町コミュニティセンターが竣工し、ホールの舞台には、龍村光峯氏制作の貴重な緞帳が掲げられた。竣工翌年の1982年(昭和57年)、三笠宮崇仁親王が温泉津をご訪問なされた際、緞帳をご覧になって「素晴らしい」と感嘆された。関係者一同「やはり良い物を作ってた」と、感慨を新たにされた。

さらに、1998年(平成10年)には高円宮憲仁親王にもご覧いただき絶賛された。